

二〇一八年二月一日(WEB句会・参加者二五名)

山粧 大磐座を冠に	菜々
目の高さ幼と合はせ月眺む	こすもす
自転車を降りて歩かむ今日の月	満天
終い湯を落として仰ぐ後の月	うつぎ
ロープウェイまさに至福や溪紅葉	やよい
月光の太き道ゆく巡視船	なつき
ままごとのまだ続きをる月の庭	小袖
虫食ひもナチュラルアート草紅葉	なおこ
夫につき不即不離なる月の道	もとこ
紅葉山伽藍の薨見え隠れ	よし子
連山の稜線濃ゆく月揚ぐる	かつみ
紅葉まだ千鳥掛けなる峠道	あさこ
艶光る廊へ且つ散る紅葉かな	更紗
美しき起伏を見せて山粧ふ	ぼんこ
紅葉且つ散る石窟の羨道に	よし女
呆け封じ参りついでや紅葉狩	はく子
香煙のお庭に満つる紅葉寺	三刀
片枝となりしは風禍もみづれる	うつぎ

寺までの大練塀や蔦紅葉	たか子
嵐峽の瀨を染めんと山紅葉	せいじ
名月のあまねく照らす大路かな	宏虎
月光に濡れて艶めく庭のもの	満天
激つ瀬に逸る川舟紅葉溪	せいじ
天空の鉄橋仰ぐ溪紅葉	かつみ
展けたるダム湖の四囲に山紅葉	わかば
江の電の触れもす軒端紅葉かな	智恵子
岩風呂へ波しぶき散る月の宿	なつき
月今宵夫を迎へにそこらまで	菜々
寺辞して京たもとほる十三夜	菜々

吟行句会みのる選

二〇一八年二月一日(WEB句会・参加者二五名)